



## 2023年8月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年10月12日

上場会社名 株式会社ハピネス・アンド・ディ 上場取引所 東  
 コード番号 3174 URL <http://www.happiness-d.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田 篤史  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 前原 聡 TEL 03-3562-7521  
 定時株主総会開催予定日 2023年11月29日 配当支払開始予定日 2023年11月30日  
 有価証券報告書提出予定日 2023年11月30日  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年8月期の連結業績（2022年9月1日～2023年8月31日）

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期	12,742	—	△216	—	△243	—	△668	—
2022年8月期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2023年8月期 △667百万円 (—%) 2022年8月期 —百万円 (—%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年8月期	△263.44	—	△45.9	△2.6	△1.7
2022年8月期	—	—	—	—	—

(参考) 持分法投資損益 2023年8月期 —百万円 2022年8月期 —百万円

(注) 1. 2023年8月期より連結財務諸表を作成しているため、2022年8月期の数値及び対前期増減率は記載しておりません。  
 2. 2023年8月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年8月期	9,093	1,503	15.9	572.01
2022年8月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 2023年8月期 1,454百万円 2022年8月期 —百万円

(注) 2023年8月期より連結財務諸表を作成しているため、2022年8月期の数値は記載しておりません。

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年8月期	△33	△53	360	1,937
2022年8月期	—	—	—	—

(注) 2023年8月期より連結財務諸表を作成しているため、2022年8月期の数値は記載しておりません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭			
2022年8月期	—	7.50	—	7.50	15.00	38	—	—
2023年8月期	—	7.50	—	7.50	15.00	38	△5.6	2.5
2024年8月期(予想)	—	7.50	—	7.50	15.00		—	

(注) 2023年8月期より連結財務諸表を作成しているため、2022年8月期の配当性向(連結)及び純資産配当率(連結)に記載しておりません。  
 なお、2023年8月期の純資産配当率(連結)につきましては、連結初年度のため、期末純資産に基づき算定しております。

3. 2024年8月期の連結業績予想（2023年9月1日～2024年8月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	6,423	△5.3	119	313.8	100	505.3	49	—	19.26
通期	11,488	△9.8	△95	—	△136	—	△149	—	△58.59

※ 注記事項

（1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社 （社名）株式会社AbHeri、除外 社 （社名）

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無  
② ①以外の会計方針の変更：無  
③ 会計上の見積りの変更：無  
④ 修正再表示：無

（3）発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数

2023年8月期	2,581,600株	2022年8月期	2,571,100株
2023年8月期	38,706株	2022年8月期	28,009株
2023年8月期	2,535,858株	2022年8月期	2,541,077株

（参考）個別業績の概要

1. 2023年8月期の個別業績（2022年9月1日～2023年8月31日）

（1）個別経営成績

（％表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期	12,359	△9.1	△267	—	△289	—	△683	—
2022年8月期	13,608	—	190	—	191	—	89	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期	△269.71	—
2022年8月期	35.36	34.25

（注）1. 2022年8月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）を適用するため、2022年8月期の売上高は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、売上高の対前期増減率は記載しておりません。

2. 2023年8月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

（2）個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
2023年8月期	8,907		1,487		16.1		565.76	
2022年8月期	9,258		2,214		23.2		846.98	

（参考）自己資本 2023年8月期 1,438百万円 2022年8月期 2,153百万円

2. 2024年8月期の個別業績予想（2023年9月1日～2024年8月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	6,161	△8.1	70	59.8	54	62.8	28	—	11.01
通期	10,946	△11.4	△205	—	△240	—	△208	—	△81.79

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断

する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料2ページ「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 連結貸借対照表 .....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	7
連結損益計算書 .....	7
連結包括利益計算書 .....	8
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(セグメント情報等) .....	11
(1株当たり情報) .....	11
(重要な後発事象) .....	12

## 1. 経営成績等の概況

当社は、2022年12月1日を取得日として株式会社A b H e r i（アベリ）を連結子会社化し、連結決算に移行しております。当連結会計年度から連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度及び前連結会計年度末との比較は行っておりません。

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度の当社グループを取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症が5月には5類へ移行され、行動制限や入国規制の緩和等により緩やかな景気回復が期待される状況になる一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化とともに、円安進行とエネルギー価格の上昇等により、電気料金や食料品等の生活基盤に関わる値上げが続いており、消費マインドの冷え込みが懸念されるなど厳しい経営環境が続いております。

このような状況下で、当社単体では、アプリと社内システムの連携を図るDX投資、外訪型・在宅型のセールスセンター構築へ向けた人材投資、プライベートブランド（PB）商品の開発パイプライン構築、オンラインとオフラインを融合させたOMO型店舗の準備、事業の成長とサステナビリティの融合を目指した社会貢献への取組み等を引き続き推進してまいりました。また、宝飾部門の強化策として、2022年12月にジュエリーの都市型店舗展開で強いブランド力を有する株式会社A b H e r iを100%連結子会社化し、グループとして事業領域の拡大も図りました。

上記当社単体におけるDX投資といたしましては、店舗DXの中心となる「ABCシステム(注)」が当社全店で稼働いたしました。これによりお客様のスマートフォンアプリを店内ビーコンが検知することで、当社CRMにおいて統合されたお客様それぞれの購買履歴等の確認が容易となり、その場のお客様にカスタマイズされた接客・商品提案等が可能となります。お客様の来店をチェックインとして感知し、お客様と販売スタッフの一人ひとりのつながりのサポートを実現してまいります。

(注)ABCシステム：お客様のアプリ（Application）、店内ビーコン（Beacon）、顧客情報管理システム（Crm）の頭文字をとった社内システムの総称。

店舗展開といたしましては、10月に土岐店（岐阜県）、4月に豊川店（愛知県）及び櫃原店（奈良県）を出店、1月に長久手店（愛知県）を閉店いたしました。また、既存店舗の活性化として10月に北見店を移転リニューアルしたほか、大和郡山店・羽生店・新居浜店・秋田店・倉敷店・座間店の改装を実施いたしました。A b H e r i 直営店3店舗を加えますと、8月末現在の当社グループ店舗数は91店舗となりました。

また、一部の不採算店舗10店舗については、2024年8月期における閉店の決定を行い、収支改善へ向けての取り組みを強化いたしました。

業績面におきましては、当社の年末年始商戦において諸物価の急激な高騰が重なり、主力である海外ブランド商品も価格高騰の影響を受けました。春先以降はマーチャンダイジング（MD）見直しによる客数対策を進めましたが、高価格帯商材の購買意欲の回復が伴わず、単価の伸び悩みの状況が続きました。一方、時計を中心に適正水準への在庫圧縮に努めるとともに、好調な金商品については品揃えの拡充に努めました。なお、A b H e r i は海外インバウンド需要を中心に業績は堅調に推移いたしました。販売費及び一般管理費におきましては、その削減に努めたものの、人件費と光熱費高騰の外部環境の影響によりコストアップとなったこと、将来を見据えた人材投資・DX投資に関わる費用が増加したことで、前年を上回る結果となりました。

なお、上記のほか、雇用調整助成金 1,807千円等を特別利益に計上いたしました。また、特別損失として、店舗の改装等に伴う固定資産廃棄損 3,309千円、不振店の閉店の決定等に伴う店舗閉鎖損失引当金繰入額 20,780千円、減損損失 187,131千円を計上いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は 12,742,594千円、営業損失 216,799千円、経常損失 243,762千円、親会社株主に帰属する当期純損失 668,051千円となりました。

なお、当社グループの業績は、クリスマス時期を中心とした年末年始商戦が最繁忙期であり、四半期決算としては第2四半期（12月～2月）の占める比重が高くなっております。

(参考) 当社グループにおける商品区分別売上高は以下のとおりです。

- ・宝飾品は、A b H e r i は高価格商品が堅調に推移したものの、ブランドショップハピネスは原材料高騰による価格上昇の影響を受けました。ただ、金商品の販売が好調であったことで、売上高 2,875,017千円となりました。
- ・時計は、価格上昇により海外ブランド時計の販売が大幅に落ち込んだものの、MD見直しをメンズ向け商品中心に取り組み、売上高 2,532,305千円となりました。
- ・バッグ・小物は、主力である海外ブランドの価格高騰による買い控えの傾向が顕著となったものの、オリジナルブランドH&D革小物は堅調に推移し、売上高 7,335,271千円となりました。

## &lt;商品区分別売上高&gt;

	当連結会計年度	前事業年度
宝飾品(千円)	2,875,017	2,543,292
時計(千円)	2,532,305	3,349,434
バッグ・小物(千円)	7,335,271	7,716,188
合計(千円)	12,742,594	13,608,915

※当連結会計年度は株式会社A b H e r i の売上高を含んでおります。なお、参考情報として記載している前事業年度の数値は、当社単体の売上高であります。

## (2) 当期の財政状態の概況

## (流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は、7,403,866千円となりました。主な内訳は現金及び預金が1,937,234千円、商品及び製品が4,464,805千円であります。

## (固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は、1,689,935千円となりました。主な内訳は建物及び構築物(純額)が607,062千円、有形固定資産のその他(純額)が142,566千円、敷金及び保証金が702,541千円であります。

## (流動負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は、3,407,013千円となりました。主な内訳は支払手形及び買掛金が570,719千円、電子記録債務が269,819千円、1年内返済予定の長期借入金が1,868,575千円、その他が410,290千円であります。

## (固定負債)

当連結会計年度末における固定負債の残高は、4,183,315千円となりました。主な内訳は長期借入金3,557,981千円、資産除去債務が337,841千円、その他が275,732千円であります。

## (純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は、1,503,472千円となりました。主な内訳は資本金が348,699千円、資本剰余金が335,723千円、利益剰余金が804,459千円であります。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、1,937,234千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、減少した資金は33,749千円となりました。これは、主として棚卸資産の減少204,999千円、減価償却費200,488千円、減損損失187,131千円、売上債権の減少79,048千円があった一方で、税金等調整前当期純損失453,021千円、未払消費税等の減少125,652千円、法人税等の支払額117,480千円、仕入債務の減少77,451千円があったこと等によるものです。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、減少した資金は53,578千円となりました。これは、主として定期預金の払戻による収入257,051千円があった一方で、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出167,677千円、無形固定資産の取得による支出56,305千円、有形固定資産の取得による支出53,577千円、敷金及び保証金の差入による支出28,520千円があったこと等によるものです。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、増加した資金は360,955千円となりました。これは、主として長期借入れによる収入2,800,000千円があった一方で、長期借入金の返済による支出2,109,913千円、長期未払金の返済による支出201,230千円、短期借入金の減少50,000千円、配当金の支払額37,882千円、自己株式の取得による支出37,484千円があったこと等によるものです。

#### (4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、コロナによる人流の制限等も正常化され、インバウンド需要の回復が期待される一方で、円安進行・諸物価の高騰が続くことも懸念され、小売業界にとって依然厳しい経営環境が続くものと思われます。

このような環境において当社は、外部環境の変化を踏まえたグループ戦略に主眼を置いた、新たな中期経営計画を策定いたしました（詳細は2023年10月3日公表「中期経営計画について」をご確認ください）。ハピネス・アンド・ディの構造改革、新規事業の子会社設立、M&Aの積極化、A b H e r i の展開拡大等を進め、早期の黒字化を図ってまいります。

次期2024年8月期の具体的な取り組みは以下のとおりです。

##### ①ハピネス・アンド・ディの構造改革

###### i) 商品改革

環境変化への対応として、輸入ブランド雑貨・時計を縮小し、利益率の高い宝飾・プライベートブランドの拡充を推進してまいります。

###### ii) 不採算店舗の閉店（10店舗決定済）による収支の改善

期中において、契約期間満了店舗も含めて、不採算店舗を順次閉店し、店舗の整理統合を進めることで、収支の改善に取り組んでまいります。閉店による収支改善が通期決算として寄与するのは2025年8月期となります。

##### ②株式会社N o.（ナンバー）の設立によるジュエリー新規事業の開発

2023年10月6日に100%子会社である株式会社N o. を設立いたしました。

初年度は商品開発期と位置づけ、市場調査・商品企画を中心に展開し、2025年8月期以降の収益化を計画しております。

##### ③M&Aを積極的に推進

当社グループは、今後さらなる業績・事業規模の拡大を図り、持続的な成長をしていくために、新たな収益機会となり得るM&Aを積極的に推進してまいります。高いシナジー効果が得られる企業を幅広く対象とし、検討・交渉を進めてまいります。

これらにより、2024年8月期の連結業績見通しは、売上高 11,488百万円（前期比△9.8%）、営業損失 95百万円（前期は営業損失 216百万円）、経常損失 136百万円（前期は経常損失 243百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失 149百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失668百万円）を見込んでおります。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国内の同業他社との比較可能性を確保するため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

		当連結会計年度 (2023年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金		1,937,234
受取手形		4,046
売掛金		677,405
商品及び製品		4,464,805
仕掛品		16,975
原材料及び貯蔵品		174,347
その他		129,050
流動資産合計		7,403,866
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物		2,320,841
減価償却累計額及び減損損失累計額		△1,713,778
建物及び構築物(純額)		607,062
リース資産		26,617
減価償却累計額及び減損損失累計額		△11,329
リース資産(純額)		15,288
その他		1,749,347
減価償却累計額及び減損損失累計額		△1,606,780
その他(純額)		142,566
有形固定資産合計		764,917
無形固定資産		
のれん		50,922
その他		69,244
無形固定資産合計		120,167
投資その他の資産		
投資有価証券		72,751
敷金及び保証金		702,541
繰延税金資産		6,259
その他		23,297
投資その他の資産合計		804,850
固定資産合計		1,689,935
資産合計		9,093,801



(単位：千円)

当連結会計年度 (2023年8月31日)	
<b>負債の部</b>	
流動負債	
支払手形及び買掛金	570,719
電子記録債務	269,819
1年内返済予定の長期借入金	1,868,575
リース債務	3,528
未払法人税等	38,509
契約負債	96,328
賞与引当金	90,000
店舗閉鎖損失引当金	20,780
資産除去債務	38,463
その他	410,290
流動負債合計	3,407,013
固定負債	
長期借入金	3,557,981
リース債務	11,760
資産除去債務	337,841
その他	275,732
固定負債合計	4,183,315
負債合計	7,590,329
<b>純資産の部</b>	
株主資本	
資本金	348,699
資本剰余金	335,723
利益剰余金	804,459
自己株式	△28,150
株主資本合計	1,460,731
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△6,158
その他の包括利益累計額合計	△6,158
新株予約権	48,899
純資産合計	1,503,472
負債純資産合計	9,093,801

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)
売上高	12,742,594
売上原価	8,277,935
売上総利益	4,464,658
販売費及び一般管理費	4,681,458
営業損失(△)	△216,799
営業外収益	
受取利息	19
受取配当金	1,964
助成金収入	1,167
その他	2,727
営業外収益合計	5,878
営業外費用	
支払利息	30,713
その他	2,127
営業外費用合計	32,841
経常損失(△)	△243,762
特別利益	
雇用調整助成金	1,807
その他	154
特別利益合計	1,961
特別損失	
固定資産廃棄損	3,309
減損損失	187,131
店舗閉鎖損失引当金繰入額	20,780
特別損失合計	211,221
税金等調整前当期純損失(△)	△453,021
法人税、住民税及び事業税	58,400
法人税等調整額	156,629
法人税等合計	215,030
当期純損失(△)	△668,051
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	—
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△668,051

## (連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)
当期純損失(△)	△668,051
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	238
その他の包括利益合計	238
包括利益	△667,813
(内訳)	
親会社株主に係る包括利益	△667,813
非支配株主に係る包括利益	—

## (3) 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	343,785	325,528	1,510,636	△19,586	2,160,363
当期変動額					
新株の発行	4,914	4,914			9,828
剰余金の配当			△38,124		△38,124
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△668,051		△668,051
自己株式の取得				△37,484	△37,484
自己株式の処分		2,636		18,985	21,621
新株予約権の発行					-
新株予約権の行使		2,644		9,935	12,579
新株予約権の失効					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					-
当期変動額合計	4,914	10,194	△706,176	△8,563	△699,631
当期末残高	348,699	335,723	804,459	△28,150	1,460,731

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△6,396	△6,396	60,875	2,214,842
当期変動額				
新株の発行				9,828
剰余金の配当				△38,124
親会社株主に帰属する当期純損失(△)				△668,051
自己株式の取得				△37,484
自己株式の処分				21,621
新株予約権の発行			744	744
新株予約権の行使			△12,566	12
新株予約権の失効			△154	△154
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	238	238		238
当期変動額合計	238	238	△11,976	△711,369
当期末残高	△6,158	△6,158	48,899	1,503,472

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前当期純損失(△)	△453,021
減価償却費	200,488
のれん償却額	8,986
株式報酬費用	28,534
固定資産廃棄損	3,309
減損損失	187,131
雇用調整助成金	△1,807
賞与引当金の増減額(△は減少)	4,000
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	20,780
契約負債の増減額(△は減少)	32,790
受取利息及び受取配当金	△1,983
支払利息	30,713
売上債権の増減額(△は増加)	79,048
棚卸資産の増減額(△は増加)	204,999
仕入債務の増減額(△は減少)	△77,451
未払金の増減額(△は減少)	△16,154
未払消費税等の増減額(△は減少)	△125,652
未収消費税等の増減額(△は増加)	△32,376
その他	19,717
<b>小計</b>	<b>112,051</b>
利息及び配当金の受取額	2,466
利息の支払額	△32,594
雇用調整助成金の受取額	1,807
法人税等の支払額	△117,480
営業活動によるキャッシュ・フロー	△33,749
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
定期預金の預入による支出	△3,000
定期預金の払戻による収入	257,051
有形固定資産の取得による支出	△53,577
無形固定資産の取得による支出	△56,305
投資有価証券の取得による支出	△5,232
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△167,677
敷金及び保証金の差入による支出	△28,520
敷金の回収による収入	7,618
その他	△3,932
投資活動によるキャッシュ・フロー	△53,578
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の増減額(△は減少)	△50,000
長期借入れによる収入	2,800,000
長期借入金の返済による支出	△2,109,913
長期未払金の返済による支出	△201,230
自己株式の取得による支出	△37,484
配当金の支払額	△37,882
その他	△2,535
財務活動によるキャッシュ・フロー	360,955
現金及び現金同等物に係る換算差額	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	273,627
現金及び現金同等物の期首残高	1,663,607
現金及び現金同等物の期末残高	1,937,234

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社グループは宝飾品、時計及びバッグ・小物等の製造・販売業という単一セグメントであるため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	当連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)
1株当たり純資産額	572円01銭
1株当たり当期純損失(△)	△263円44銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (2023年8月31日)
純資産の部の合計額(千円)	1,503,472
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	48,899
(うち新株予約権(千円))	(48,899)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	1,454,573
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	2,542,894

3. 1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)
1株当たり当期純損失(△)	
親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	△668,051
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	△668,051
普通株式の期中平均株式数(株)	2,535,858

(重要な後発事象)

(子会社の設立)

当社は、2023年10月3日開催の取締役会において、以下のとおり子会社を設立することを決議し、2023年10月6日に設立いたしました。

1. 子会社設立の目的及び新たな事業の概要

当社グループは、インポートブランド品を中心とした「ブランドショップハピネス」「Ginza Happiness」をショッピングセンター中心に全国に展開しております。また、ジュエリーブランドA b H e r i (アベリ)を都市型店舗を中心に展開しております。

こうした中で、宝飾部門を一層強化すべく、ジュエリー商品の企画、開発、製造、卸売り、小売、輸出入を目的とした、新たな子会社を設立いたします。

今後、新会社による新ジュエリーブランドの創出と販路の拡大により、ハピネスグループの事業領域及び収益基盤の拡大を図ってまいります。

2. 設立する子会社の概要

(1) 名称	株式会社N o. (カブシキガイシャ ナンバー)
(2) 所在地	東京都中央区銀座一丁目16-1
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 青木 千秋
(4) 事業内容	貴金属製品、装身具の企画、開発、製造、卸売り、小売業及び輸出入
(5) 資本金	30,000千円
(6) 設立年月日	2023年10月6日
(7) 出資比率	当社100%